

# 東京湾海況情報 12-22

平成12年10月25日  
千葉県水産試験場 富津分場  
〒293-0042 富津市小久保3091  
0439-65-3071

資料：水質観測（10/23 わかふさ、水質保全研究所、10/24 内湾底びき網連絡協議会）

## のり漁場環境調査結果

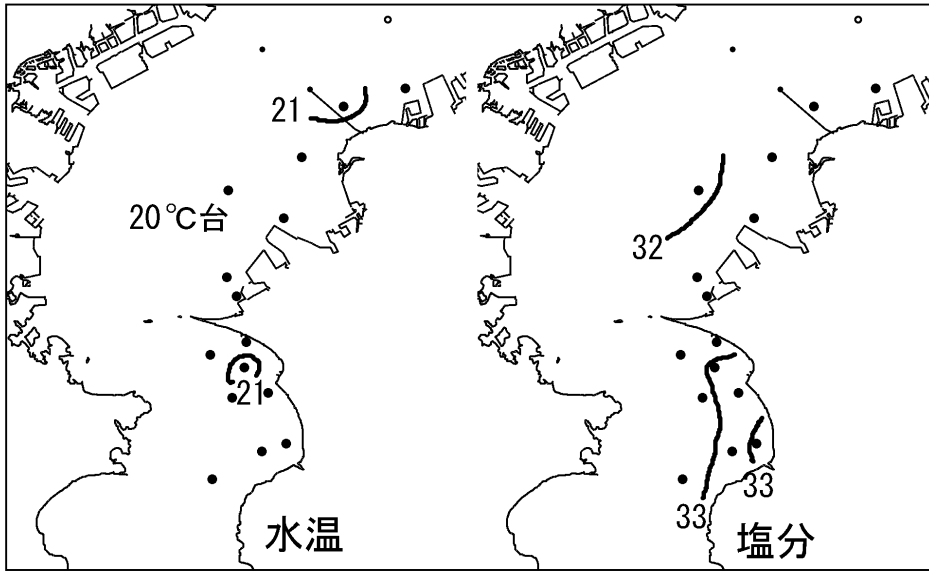


図1 表層の水温，塩分分布

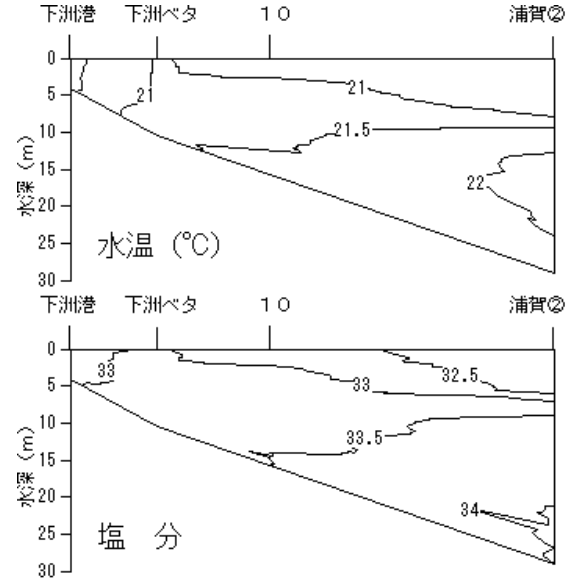


図2 内房海域の鉛直分布

水温・塩分の状況（図1，2，3，表1）

表層の水温は内湾～内房で20台，塩分は内湾で23～32，内房で32～33でした。

内房の縦断面の鉛直分布をみると，水温は20～22，塩分は32～34でした。

栄養塩類の状況（図4，表1）

表層の栄養塩類は溶存態窒素が200～300 $\mu\text{g/L}$ ，リン酸態リンが1桁～50 $\mu\text{g/L}$ でした。沿岸でのリンの減少が目立ちます。

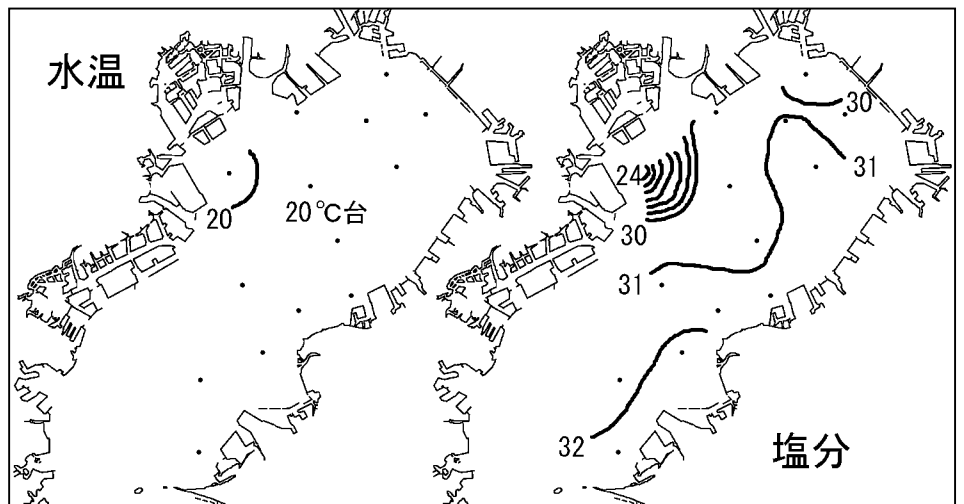


図3 表層の水温，塩分分布（小底資料：10/24）

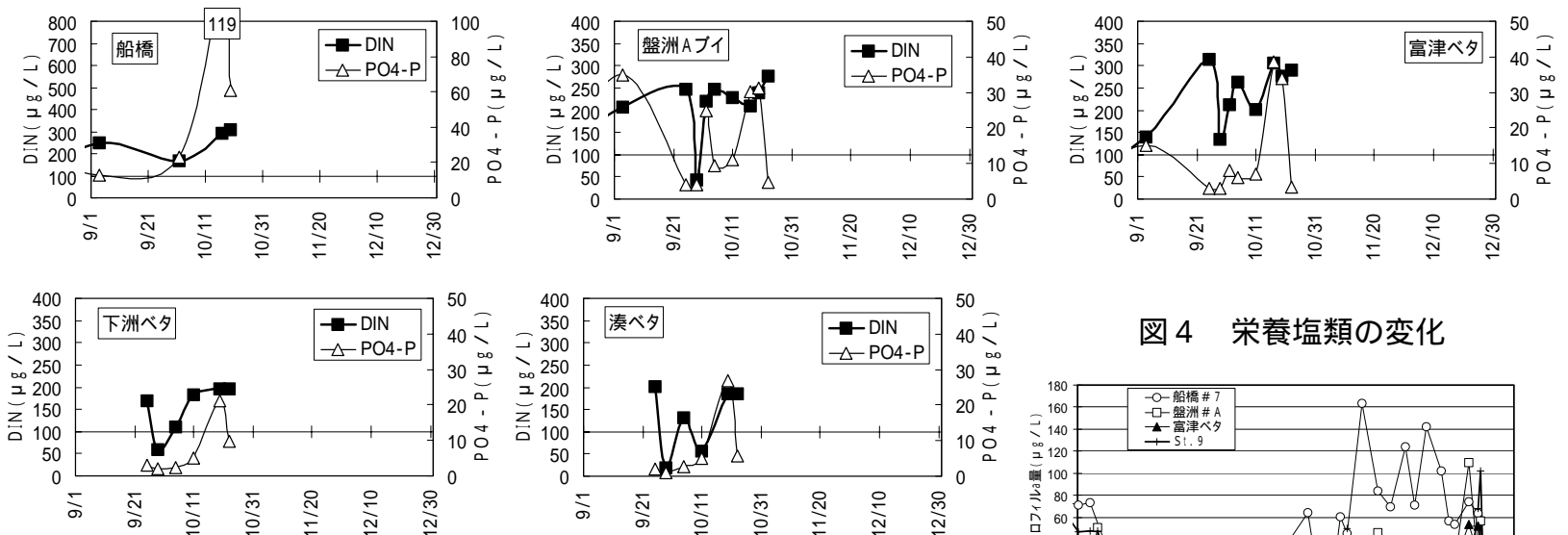


図4 栄養塩類の変化

赤潮の状況（図5，表1）

調査海域での赤潮はありませんでした。植物プランクトンの量の指標となるクロロフィルa量は2～7 $\mu\text{g/L}$ でした。

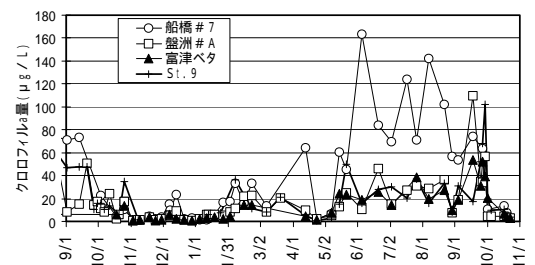


図5 クロロフィルa量の変化

低酸素水塊の状況 (図6, 7)

底層の低酸素水塊は徐々に回復してきています。縦断面でも2ml/L以下の水塊はごくわずかです。

残りの低酸素水も北よりの風により湾奥で湧昇し、解消していく模様です。

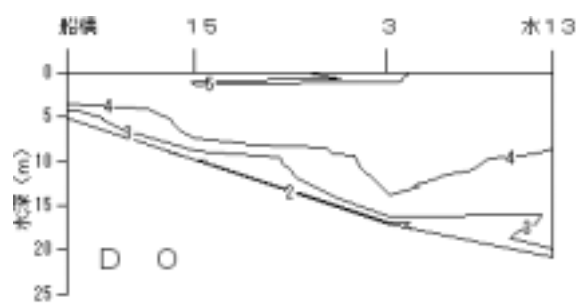


図7 内湾縦断面のDO鉛直分布  
(10/23, 水質保全研究所)

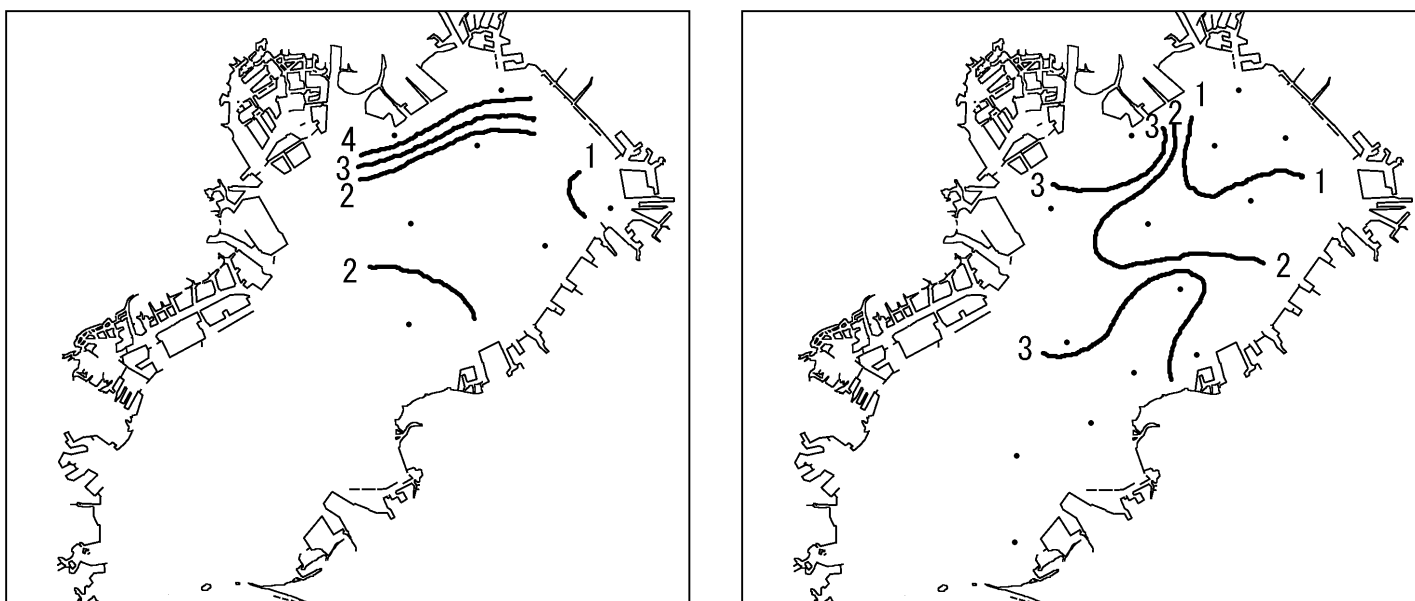


図6 底層の溶存酸素量分布 (ml/L)  
左は10/23水質保全研究所資料, 右は10/24小底観測資料  
半日ほどの北東風で低酸素水塊は沿岸まで移動するようです

表1 水質観測結果(表層)

調査点	透明度	pH	水温	塩分	現場比重	15換算比重	溶存態窒素 (μg/l)	リン酸態リン (μg/l)	アンモニア態窒素	クロロフィルa量
富津赤灯	底	8.1	20.4	32.5	22.8	24.1	284	7	34	
下洲港口	底	8.1	20.4	32.9	23.1	24.4	240	12	45	
大貫ベタ	6.5	8.1	20.6	33.0	23.1	24.4	197	10	22	
湊ベタ	6.0	8.2	20.3	32.9	23.1	24.4	186	6	21	
st.12	8.5	8.3 (8.3)	20.9 (21.3)	33.0 (30.9)	23.0 (21.4)	24.4 (22.9)	201 (308)	7 (23)	14 (28)	
浦賀2番ブイ	8.0	8.1	20.5	32.2	22.5	23.8	311	9	30	
st.10	8.0	8.2 (8.3)	20.8 (21.3)	32.7 (30.9)	22.9 (21.4)	24.3 (22.9)	235 (332)	12 (28)	22 (32)	
下洲ベタ	10.0	8.2	21.0	33.0	23.0	24.5	197	10	19	
1海ほ下	9.0	8.1	20.8	32.9	23.0	24.4	219	10	28	
富津ベタ	4.0	8.0	20.6	32.4	22.6	24.0	289	3	27	2.8
st.9	6.0	8.1 (8.3)	20.4 (21.1)	31.6 (29.3)	22.1 (20.2)	23.4 (21.6)	379 (456)	51 (28)	36 (49)	3.9
盤洲Cブイ	3.9	8.2 (8.2)	20.9 (21.6)	32.3 (30.3)	22.5 (20.8)	23.9 (22.4)	307 (372)	13 (31)	45 (52)	6.6
盤洲Bブイ	5.0	8.0	21.0	32.5	22.6	24.1	291	9	44	5.3
盤洲Aブイ	7.0	<8.0 (8.2)	20.9 (20.9)	32.7 (29.9)	22.8 (20.6)	24.2 (22.0)	278 (413)	5 (35)	37 (57)	2.9
木更津	6.0	8.1	20.4	32.1	22.5	23.8	284	4	25	

( )は上旬の10年平均です